

平成 31 年/令和元年 郡上市観光入込統計調査結果（概要）

1. 調査について

調査期間 平成 31 年 1 月 1 日から令和元年 12 月 31 日までの 1 年間

調査対象 ・観光地点の定義（78 地点）

市内の年間観光客が 1 万人以上又は季節的観光客が月間 5 千人以上の
観光施設・地点、または、行・祭事、イベント。

その他、市が独自で調査する地点。

・宿泊施設の定義（令和元年 12 月時点営業施設 161 件）

市内の宿泊施設で、管理者が明確で常駐しており、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。

ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居（民泊）、
同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

2. 結果の概要

- ・日本人宿泊客数は、約 44 万 3 千人泊で前年（約 42 万 7 千人泊）より約 1 万 6 千人泊（3.8%）の増加
- ・外国人宿泊客数は、約 2 万 2 千 5 百人泊で前年（2 万 2 千 9 百人泊）より約 4 百人泊（1.7%）の減少
- ・観光入込客数は、約 564 万 6 千人で前年（551 万人 2 千人）より約 13 万 4 千人（2.4%）の増加

日本人宿泊客数増加の要因については、GW が 10 連休となり人々の観光意欲が高かった事や、平成 30 年と比較して好天に恵まれ、台風や集中豪雨などの影響が少なかったことが考えられる。

結果として日本人の宿泊客数は 4 月が 8,137 人（40.6%）、5 月が 7,404 人（19.0%）の増加となった。また、7 月は 3,745 人（9.4%）、8 月は 6,500 人（8.0%）の増加となった。

外国人宿泊客数の減少については、令和元年 7 月頃より影響が顕著に出始めた、日韓関係の悪化により韓国が 943 人（43.0%）とほぼ半減したことが主な要因と考えられる。

観光入込客数の増加については、5 月に開催された「新元号「令和」/ 徹夜で祝う郡上おどり」の開催で 15,000 人の入込があった事や、「道の駅 古今伝授の里やまと」のリニューアルオープン、夏期に天候が良好だったことによって、釣り客・ヤナ客の入込回復などが要因と考えられる。また、平成 30 年 6 月にオープンした「清流長良川あゆパーク」の入込が好調で、年間で約 220,000 人の入込があった。

しかし、平成 30 年に引き続き、暖冬によりスキー客の入込は減少し、スキー場の入込客数は 1,179,962 人となり、対前年比で 60,011 人（4.8%）の減少となった。

3. 宿泊客数について

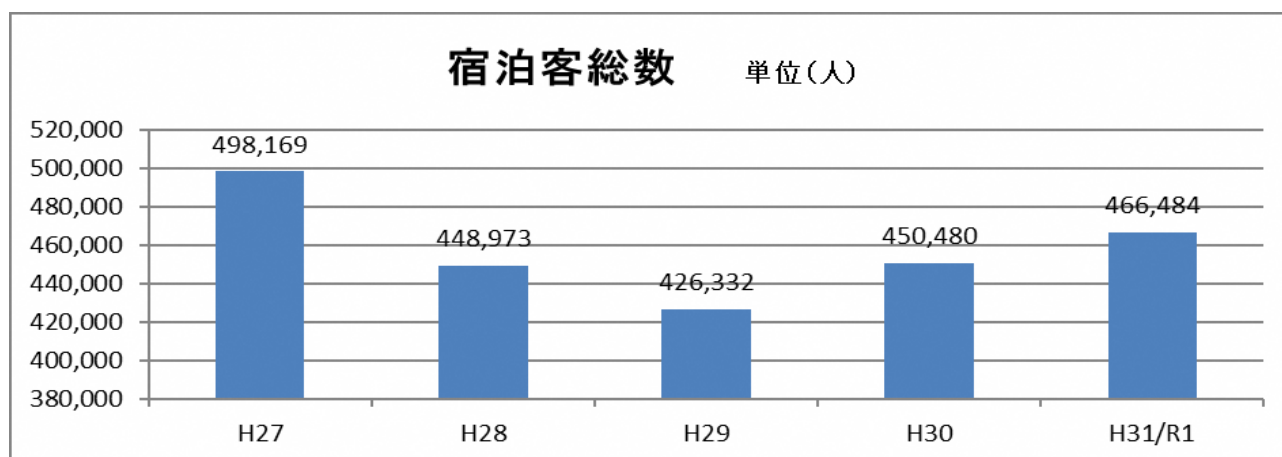
(1) 過去5年の推移

日本人・外国人合計の宿泊客数は466,484人泊で、前年に比べて16,004人泊(3.6%)増加している。過去5年で見ると平成27年に次ぐ数値となっている。

単位(人泊)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年/令和元年
宿泊客総数	498,169	448,973	426,332	450,480	466,484
対前年比	111.8%	90.1%	95.0%	105.7%	103.6%

※ 平成27年はふるさと旅行券などの影響で全国的に増加



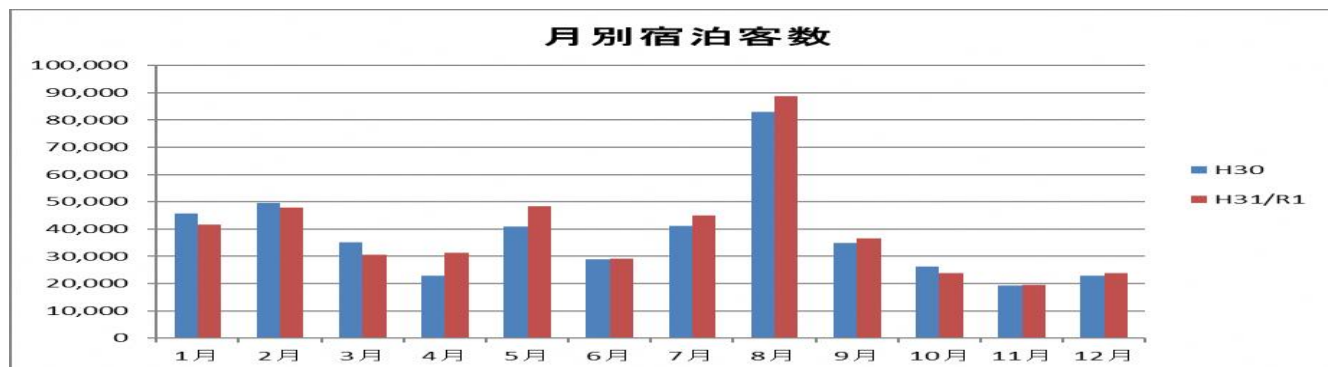
(2) 月別の宿泊状況

月別の宿泊客数は8月、5月、2月の順で多く、11月、10月、12月の順で少なかった。

8月は前年と比較すると台風や豪雨災害、猛暑の日が少なかったことが影響し、前年対比で5,852人(7.1%)の増加となった。GWの10連休の影響を大きく受けた4月が対前年比8,218人(35.8%)、5月が7,502人(18.4%)と大幅に増加した。

単位 (人泊)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H30	45,724	49,582	35,140	22,973	40,849	29,009	41,052	82,959	34,984	26,182	19,189	22,837	426,332
H31/R1	41,619	47,801	30,592	31,191	48,351	29,203	44,898	88,811	36,580	23,918	19,568	23,952	466,484



(3) 地域別の宿泊状況

地域別の宿泊客数は、高鷲町が 197,682 人泊（構成比 56.0%）、八幡町が 79,879 人泊（構成比 22.6%）、白鳥町が 30,474 人泊（構成比 8.6%）、明宝が 26,661 人泊（構成比 7.6%）、大和町が 6,895 人泊（構成比 2.0%）、和良町が 6,126 人泊（構成比 1.7%）、美並町が 5,136 人泊（構成比 1.5%）となった。

前年比では、大和町が 23.9%、美並町 8.6%、明宝が 2.7%、和良町が 16.0%増加した。

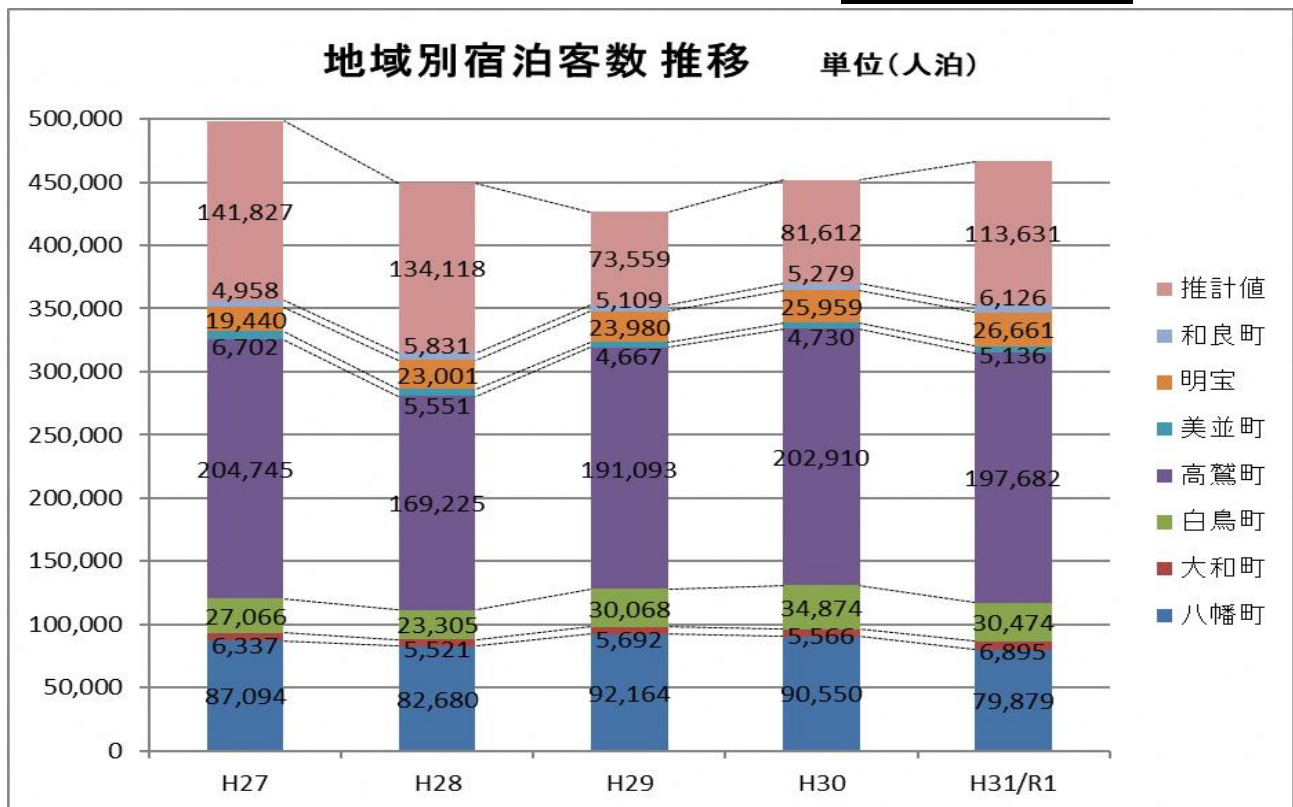
八幡町は 11.8%、白鳥町は 12.6%、高鷲町は 2.6%減少した。

※ 各地域の数値及び推計値は、施設の回答率により年毎に変動することがある。

なお、推計値の数値は構成比に含まない。

単位(人泊)

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年/令和元年	対前年比
八幡町	87,094	82,680	92,164	90,550	79,879	88.2%
大和町	6,337	5,521	5,692	5,566	6,895	123.9%
白鳥町	27,066	23,305	30,068	34,874	30,474	87.4%
高鷲町	204,745	169,225	191,093	202,910	197,682	97.4%
美並町	6,702	5,551	4,667	4,730	5,136	108.6%
明宝	19,440	23,001	23,980	25,959	26,661	102.7%
和良町	4,958	5,831	5,109	5,279	6,126	116.0%
推計値	141,827	134,118	73,559	81,612	113,631	139.2%
市計	498,169	449,232	426,332	451,480	466,484	103.3%



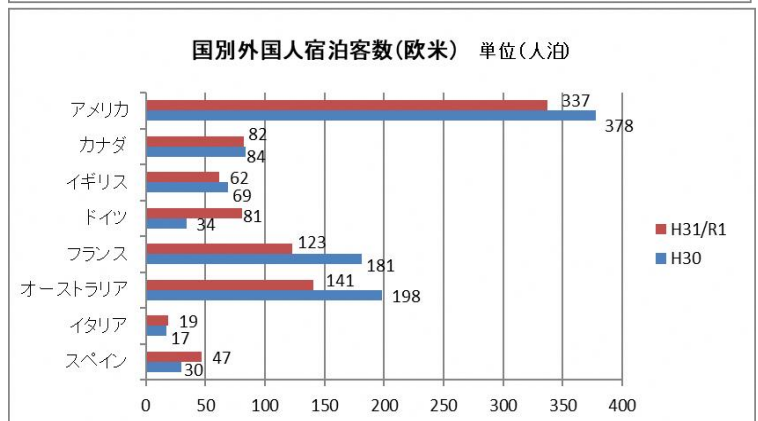
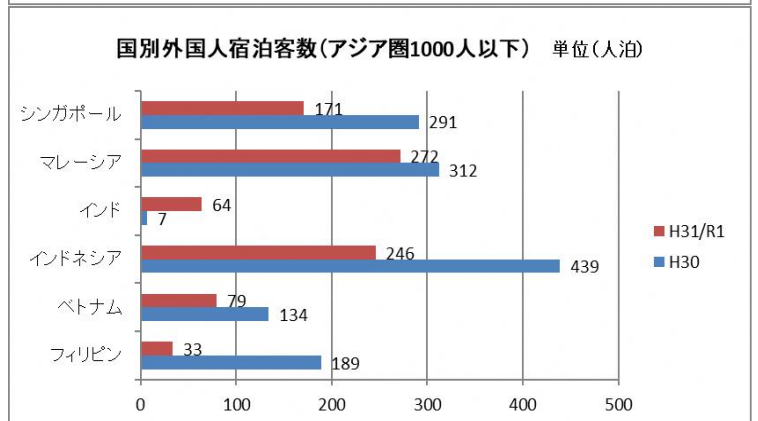
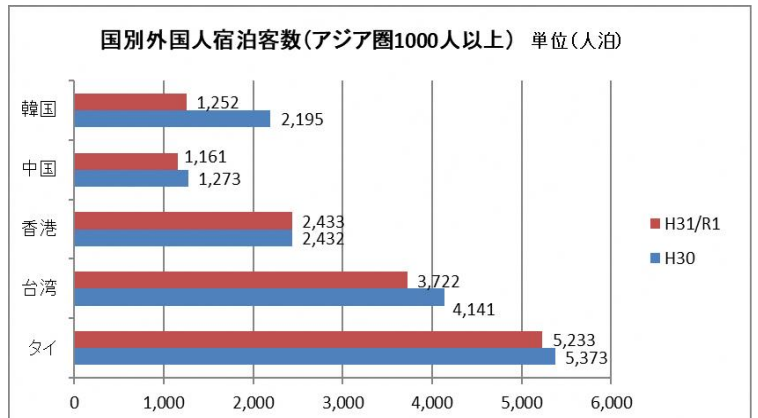
(4) 外国人宿泊客数について

外国人宿泊客数は、前年の 22,991 人泊から 394 人泊（1.7%）減少し、22,597 人泊となった。

国別ではタイ（5,233 人泊）が最も多く、次いで台湾（3,722 人泊）、香港（2,433 人泊）となった。令和元年 7 月頃より影響が顕著に出始めた、日韓関係の悪化により韓国が 943 人(43.0%)とほぼ半減したことが減少の主な要因である。なお、国・地域別の宿泊客数については、団体ツアー等の受け入れ可能な市内宿泊施設がある程度限られることから、宿泊施設の状況や団体旅行のコース設定などによって、前年との比較が大きく変動するケースが見られる。

単位(人泊)

	H30	H31/R1	対前年比
韓国	2,195	1,252	57.0%
中国	1,273	1,161	91.2%
香港	2,432	2,433	100.0%
台湾	4,141	3,722	89.9%
アメリカ	378	337	89.2%
カナダ	84	82	97.6%
イギリス	69	62	89.9%
ドイツ	34	81	238.2%
フランス	181	123	68.0%
ロシア	26	8	30.8%
シンガポール	291	171	58.8%
タイ	5,373	5,233	97.4%
マレーシア	312	272	87.2%
インド	7	64	914.3%
オーストラリア	198	141	71.2%
インドネシア	439	246	56.0%
ベトナム	134	79	59.0%
フィリピン	189	33	17.5%
イタリア	17	19	111.8%
スペイン	30	47	156.7%
その他	786	923	117.4%
国籍不明	0	546	-
推計値	4,402	5,562	126.4%
市 計(※2)	22,991	22,597	98.3%



※市計の数値には、調査未回答施設の推計値も含むため各地域の合計値とは異なる。

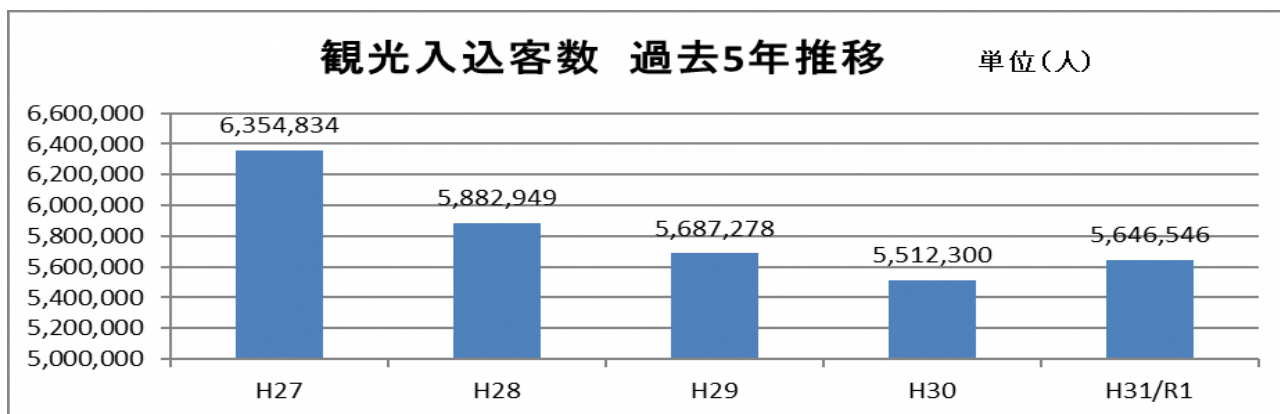
3. 観光入込客数について

平成31年1月から令和元年12月までの1年間で、市内の観光施設・地点、及び行・祭事、イベント（78地点）を訪れた観光入込客数は5,646,546人で、対前年比で134,246人（2.4%）増加した。

（1）過去5年の推移

単位(人)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年/令和元年
入込総数	6,354,834	5,882,949	5,687,278	5,512,300	5,646,546
対前年比	101.0%	92.6%	96.7%	96.9%	102.4%



（2）月別の入込状況

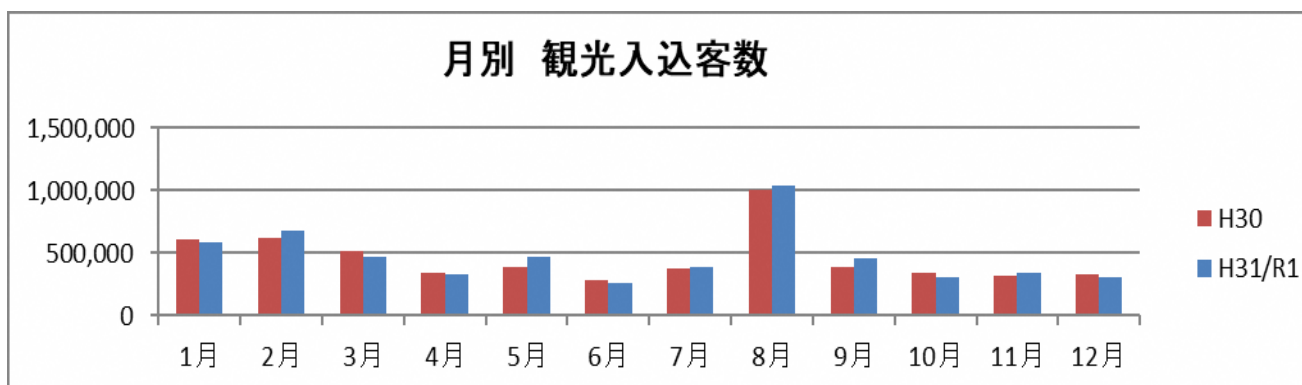
月別の観光入込客数は例年と同じく、郡上おどりや白鳥おどりの開催の他、納涼スポットの入込が増える8月が最も多く、次いでスキーなどのレクリエーションや、温泉の入込客数が増える2月、1月の順となった。

5月が86,907人(22.4%)の増加となっており、10連休となったGWの影響を受けた形となった。

入込の少ない月は6月、12月、10月の順となった。6月はGWの反動で落ち込み、12月は平成30年同様、暖冬の影響を受けスキー客が減少したことが要因と考えられる。

単位(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H30	609,607	616,434	515,171	338,568	388,772	279,854	371,705	1,002,771	392,408	348,011	322,907	326,092
H31/R1	586,426	682,433	468,976	328,440	475,679	265,983	386,480	1,042,673	462,131	302,936	342,429	301,960



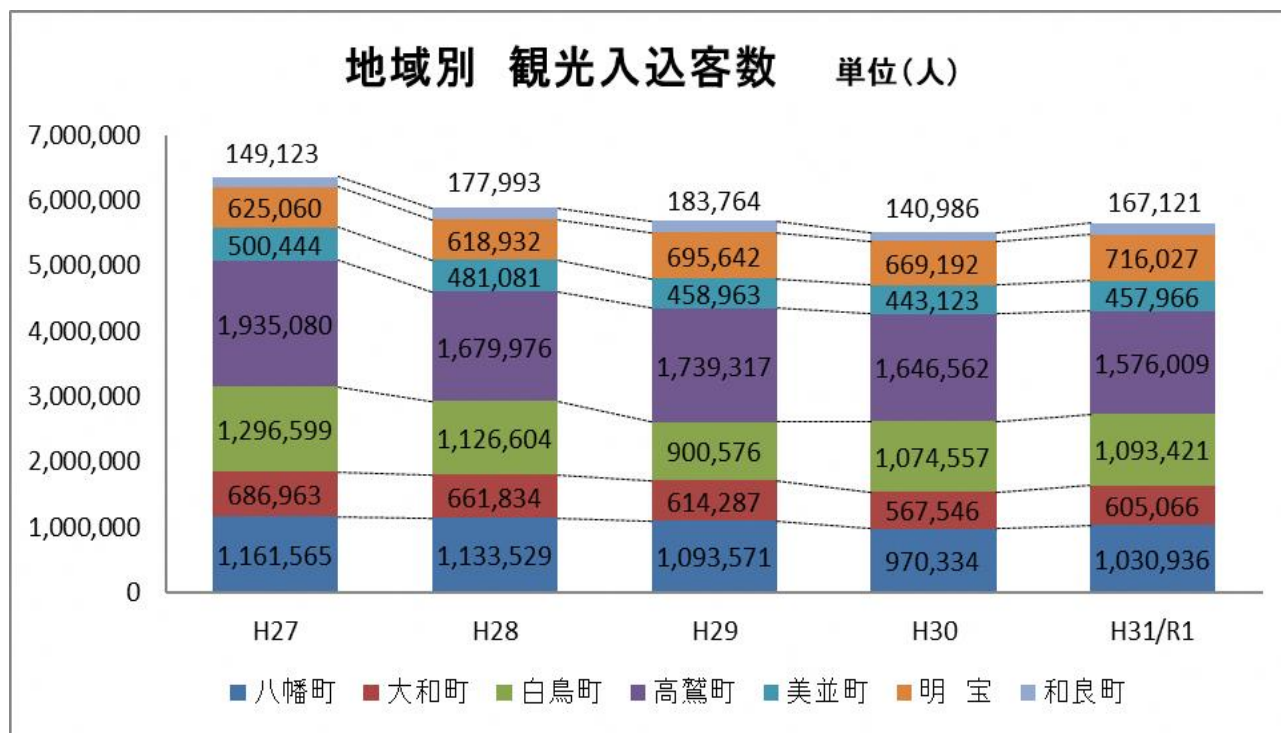
(3) 地域別の入込状況

「新元号「令和」/ 徹夜で祝う郡上おどり」の開催や、平成 30 年と比較し好天による、釣り客の回復・ヤナ客の増加によって、八幡町が対前年比で 6.2%の増加。「道の駅 古今伝授の里やまと」のリニューアルオープンの影響を受けた大和町が 6.6%増加。「清流長良川あゆパーク」の入込が好調な白鳥が 1.8%の増加となった。その他 GW の 10 連休の影響を受け、美並町が 3.3%、明宝が 7.0%、和良町が 18.5%の増加となった。

高鷲町は、平成 30 年同様暖冬の影響を受け、前年対比で 4.3%の減少となった。

単位(人)

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年/令和元年	対前年比
八幡町	1,161,565	1,133,529	1,093,571	970,334	1,030,936	106.2%
大和町	686,963	661,834	614,287	567,546	605,066	106.6%
白鳥町	1,296,599	1,126,604	900,576	1,074,557	1,093,421	101.8%
高鷲町	1,935,080	1,679,976	1,739,317	1,646,562	1,576,009	95.7%
美並町	500,444	481,081	458,963	443,123	457,966	103.3%
明宝	625,060	618,932	695,642	669,192	716,027	107.0%
和良町	149,123	177,993	183,764	140,986	167,121	118.5%
市計	6,354,834	5,879,949	5,686,120	5,512,300	5,646,546	102.4%



(4) 観光地点分類別の入込状況

観光入込客の地点分類別構成比の傾向は例年と大きく変わらず、道の駅などの「買物」が最も多く、次いでスキーなどの「スポーツ・レクリエーション」、「温泉」の順となった。

暖冬により、スキー場の入込者数は対前年比で 60,011 人（4.8%）の減少となったが、キャンプ、ゴルフ場の施設入込者数が前年を上回っている為、合計で 0.1%の増加となった。「温泉」はスキー客の減少に影響されたことや、該当施設の営業期間短縮が要因となり 7.7%の減少となった。「イベント」の 8.6%の減少については、「食の祭典 in ぎふ郡上」の開催時に天候不良が重なり、対前年比で 9,000 人の減少となったことが要因と考えられる。

前年と比較して好天の影響で「自然」が 7.2%、9 月に「古今伝授の里フィールドミュージアム」内の「よぶこどり」がオープンした事によって「文化・歴史」が 9.4%の増加。釣り客の入込回復によって「産業観光」が 7.8%の増加。「道の駅 古今伝授の里やまと」リニューアルオープンによって「買物」が 5.7%増加となった。

また、暖冬によって道路環境が良くなり、スキー目的以外で観光客が訪れやすくなったことも増加の要因と考えられる。

単位(人)

	平成 30 年	平成 31 年/令和元年	対前年比	構成比
自然	419,695	449,806	107.2%	8.0%
文化・歴史	337,215	369,028	109.4%	6.5%
産業観光	473,519	510,423	107.8%	9.0%
スポーツ・レクリエーション	1,521,329	1,522,968	100.1%	27.0%
温泉	744,268	686,667	92.3%	12.2%
買物	1,570,074	1,659,754	105.7%	29.4%
行・祭事	370,700	378,900	102.2%	6.7%
イベント	75,500	69,000	91.4%	1.2%
市 計	5,512,300	5,646,546	102.4%	100.0%

観光入込客地点分類別構成比

